

# 月喫煙補導件数が減少

## 5 タスポ導入一定の効果？

2008.6.11

鳥取県内で五月に喫煙で補導された件数が、昨年同月に比べて減少したことが分かった。県内では今年五月、ほとんどのたばこ自動販売機に、ICカード(タスポ)で成人を識別する仕組みが導入された。タスポ導入と喫煙補導件数の減少との

関係ははっきりしないが、一定の効果はあったとみられる。昨年と比較した補導件数(速報値)は▽一月11件増▽二月12件減▽三月10件減▽四月35件減で、今年は減少傾向にあることが分かる。五月については、昨

年が二百三十七件だったのに対し今年は百七十五件。六十二件(26%)の減少で、ほかの月より減少幅が大きかった。しかし、二〇〇四年に全国に先駆けてICカードを導入した鹿児島県の種子島では、導入後二年間は補導が減

少したが、三年目の〇六年には、導入前の二倍以上に増加。タスポの導入は、未成年者の喫煙防止の切り札にはならないとの意見もある。

日本たばこ産業鳥取営業所は「種子島で増加したが、成人識別自販機でのたばこの入手は補導の総件数に対して7%台と低水準で、未成年者の購入防止に高い効果があると認識する。成人識別自販機

からの購入に関して、大人のカード管理の不徹底が主な原因だと聞いている」と指摘する。

四百人(各都道府県の男女各百人)を対象にインターネットで実施。禁煙に対する意識やニコチン依存症に対する認識や疾患への理解、医療機関での受診状況について聞いた。

このうち、「たばこで健康問題が起きていくと分かっているにもかかわらず、スクリーニングテストの結果、県内でニコチン依存症と判明したのは二百人中百五十九人(79.5%)で、全国最多。ニコチン依存症を自覚している喫煙者の割合は64.8%と全国七位で、自覚率も高かった。一方、73.0%(全国六位)の喫煙者が過去に禁煙に失敗。それでもすぐに禁煙に挑戦したいと考えているのは46.0%(同十二位)に上り、禁煙したくてもなかなかやめられない実態が明らかになった。

# 県内8割全国最悪

## ニコチン依存症

2008.6.11

調査 煙調 者査 喫意

鳥取県の喫煙者の79.5%が「ニコチン依存症」で、全国最悪。製薬大手ファイザーが実施した喫煙者の意識調査で、県内の愛煙家の実態が明らかになった。

また、完全禁煙の職場の割合は全国四十七位で、職場の禁煙環境意識の低さも浮き彫りになっている。

調査は、全国四十七都道府県の喫煙者九千

調査は、全国四十七都道府県の喫煙者九千